⑷　Ｆ２、Ｆ１Ｄ電波の場合

連続的に制御信号を送出する試験状態により変調を行う。

⑶　トーンスケルチを有する場合は、トーンを使用状態とする（トーン周波数は任意）。

4　測定操作手順

⑴　データの取り込み

掃引が終了したとき、全データ点の値をコンピュータの配列変数に取り込む。

⑵　真数変換

全データについて、dB値を電力次元の真数に変換する。

⑶　全電力の計算

全データの電力総和を求め「全電力」として記憶する。

⑷　下限周波数の計算

㋐　最低周波数のデータから順次上に電力の加算を行い、この値が「全電力」の0.5％となる限界データ点を求める。

㋑　その限界点を周波数に変換して「下限周波数」として記憶する。

⑸　上限周波数の計算

㋐　最高周波数のデータから順次下に電力の加算を行い、この値が「全電力」の0.5％となる限界データ点を求める。

㋑　その限界点を周波数に変換して「上限周波数」として記憶する。

5　試験結果の記載方法

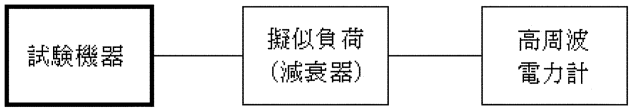
占有周波数帯幅は、「上限周波数」及び「下限周波数」の差として求め、kHzの単位で記載する。

六　スプリアス発射又は不要発射の強度

別表第一の測定方法による。ただし、スプリアス発射の強度の測定については、隣接チャネル漏えい電力についての測定方法で代えることができる。

七　空中線電力の偏差

1　測定系統図



2　測定器の条件等

⑴　高周波電力計の型式は、通常、熱電対あるいはサーミスタ等による熱電変換型とする。

⑵　減衰器の減衰量は、電力計に最適動作を与える値とする。

3　試験機器の状態

⑴　試験周波数に設定する。

⑵　変調は、無変調とする。